

Tsuchitter

~つちうらを フォロってファボって リツイート~

1班 井下純貴/石村匠/瀬島由実加/富田真紀/山根優生 TA 岩片麻実

1.コンセプト

Twitterとは140文字以内の「ツイート」(=つぶやき)と称される短文を投稿できる情報サービスである。Twitterではフォロー(=知る・つながる)、ツイート(=発信する)、ファボ(=お気に入り登録する)、リツイート(=他の人に拡散する)という4つの行為により情報の共有を行う事ができる。私たちはTwitterを参考に、「Tsuchitter ~つちうらをフォロってファボってリツイート~」というコンセプトのもと、土浦の将来に向けたまちづくりの方向づけを行った。この実習においてTwitterの4つの行為を以下のように定義した。

- ・ フォロー
土浦市民が土浦を知る
- ・ ツイート
私たちが生活環境向上・魅力アップのための提案をする
- ・ ファボ
土浦市民が土浦のまちを好きになる
- ・ リツイート
土浦市民が土浦をまわりに自慢したくなる

2.土浦市の概要

土浦市は茨城県南部に位置する都市であり、東京から60km圏内、成田国際空港から約40kmに位置している。平成18年2月、新治村と合併を行い面積122.99km²となった。平成25年9月現在142,617人が暮らしている。水と緑に恵まれた都市であり、筑波山山麓・桜川・日本第2位の面積を誇る霞ヶ浦を有している。霞ヶ浦周辺には蓮田が広がり、レンコンの産地としても有名である。土浦は江戸時代に土浦城の城下町として発展した。また、霞ヶ浦による水運だけでなく水戸街道による陸上交通の拠点としても栄えていた。

3.現状の把握・分析

【3-1.人口】

図1で示す通り、土浦市の人口は2010年に新治村と合併し大幅に増加したが、それ以降は減少傾向にある。コーホート要因法によると今後も高齢者人口割合が増加し、高齢化がより深刻化していくことが予測される。

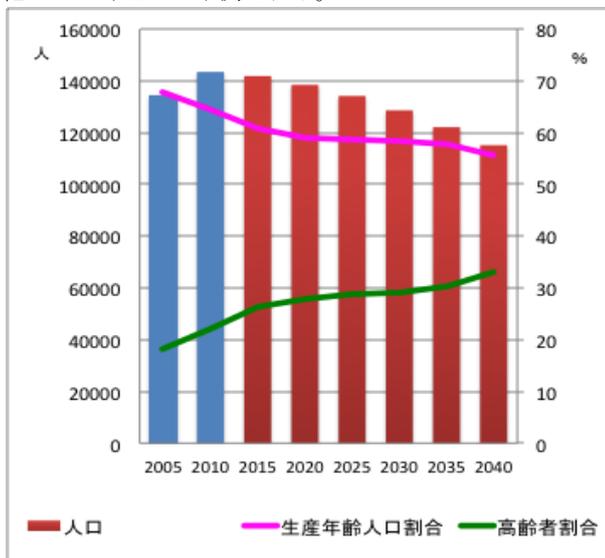


図1.土浦市の人口推計

【3-2.農水産業】

土浦市は、地形、気象条件、交通網の発達、首都圏大消費地に近いという恵まれた立地条件のため、茨城県内でも農業が盛んな地域である。平成18年度茨城農林水産統計年報より、農業出荷額は96億8000万円と多く、その内訳としては米14.5%、野菜45.6%、花卉9.9%、果実7.7%、畜産類19.1%、その他3.2%となっている。またレンコンの生産量は全国第1位で、れんこん麺、れんこんサブレなどれんこんの加工品も製造されている。図2のデータによれば平成17年から平成22年の間に農家数・農家人口共に増加したように見えるが、平成18年の新治村との合併によるもので、全体の流れとしては減少傾向にある。

土浦市の農業

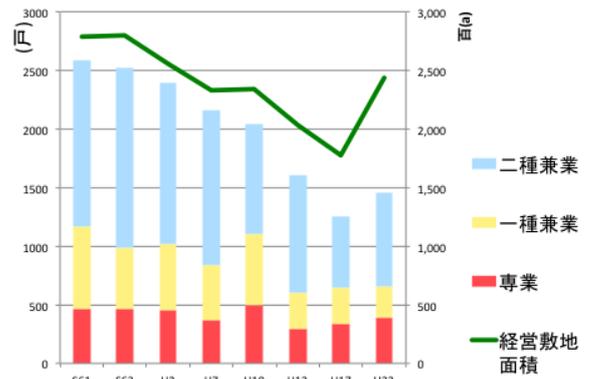


図2.土浦市の農家人口

霞ヶ浦においては昔から漁業が盛んであったが、図3に示す通り水質や生態系の変化により漁獲量が減少傾向にある。2003年にはコイヘルペスウイルスの流行により養殖鯉の大量死が発生、これにより鯉の養殖といった特徴ある景観が消えてしまった。

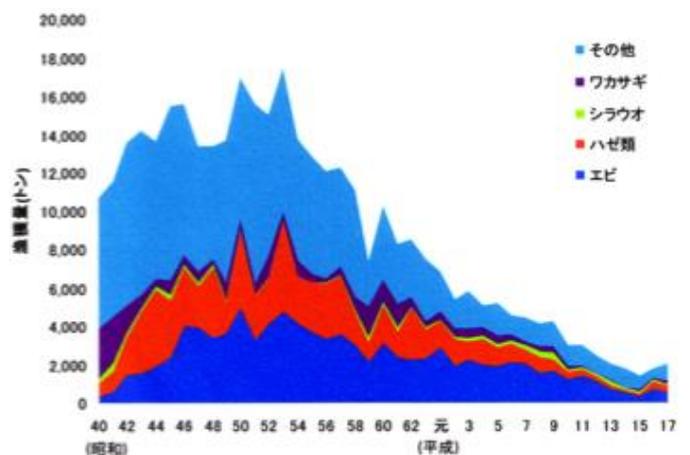


図3.霞ヶ浦における漁獲量

【3-3.工業】

市北部に工業集積地が位置し、市内には神立の土浦・千代田工業団地、テクノパーク土浦北、東筑波新治工業団地、おおつ野ヒルズの4つの工業団地がある。首都東京から約60km圏内という好立地にあり、交通の便も良く、神立以外の3カ所では奨励金交付制度を設けることにより企業誘致を行なっている。ただし、図4に示す土浦おおつ野ヒルズ工業団地については未利用率が86%と大部分が未利用のままである。土浦市全体としては、2009年の製造品出荷額等がリーマンショックの影響もあり大幅に減少したものの、翌年には製造品出荷額、従業員数ともに増加している。

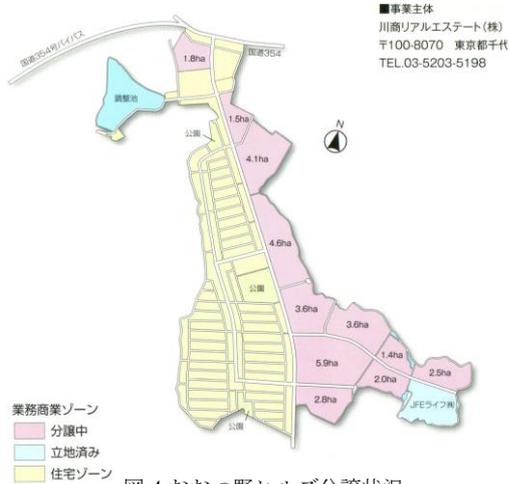


図4.おおつ野ヒルズ分譲状況

【3-4.商業】

「イオンモール土浦」をはじめ、つくば市の「iasつくば」、阿見町の「阿見アウトレット」など郊外型ショッピングセンターが増加していることによって、土浦市の中心市街地の商業は年々衰退している(図5)。中心市街地の商店街では店主の高齢化により、シャッターを閉める店舗や空き店舗が増加し、モール505についても空き店舗が増加し魅力的とは言えない状況である。また、平成27年には市庁舎がウララに移転することが決定しており、中心市街地の大型店舗の一つが失われ、さらに中心市街地の商業の衰退が加速することが考えられる。



図5.土浦市周辺の大型店舗立地

【3-5.交通】

土浦市の主要道路については特に国道6号は土浦市における最重要幹線道路であるが、一方で交通量の増加に伴い、慢性的な渋滞が起こっている。また、国道6号と平行して常磐自動車道も通っており、市内には桜土浦、土浦北の2つのICがある。また、鉄道についてはJR常磐線荒川沖駅(8,451人/日)、土浦駅(16,233人/日)、神立駅(5,475人/日)がある。しかし、これら3駅の利用者数はそれぞれ緩やかに減少している。TXの開通や人口減少が関係していると考えられる。

バスについては路線バスとまちづくり活性化バス「キララちゃん」が運行。路線バスは市内に数多くのバス停を設置しているが、平日1日あたり片道200本を超えるバスが停車するバス停がある一方、1日数回しかバスの来ないバス停もある。また路線バスの利用者は減少傾向にあり、廃止になった路線も多々ある。一方で市内のNPO法人が運行している「キララちゃんバス」は中心市街地活性化を目的としており、こちらの利用者数は図6に示す通り増加している。また地元住民が運行経費を一部負担するコミュニティバス「新治バス」も運行されているほか、「のりあいタクシー土浦」という、指定場所から指定場所まで送るサービスも行っている。このサービスを利用するには年会費2000円および運賃片道500円(場所によっては1000円)が必要となり、市内限定で運行を行っている。また高速バスも運行しており、成田空港や大阪京都、水戸等へ行くことができる。

以上から、キララちゃんバスの運行がなく、なおかつ路線バスの本数が少ない場所や路線が廃止された場所は自動車を持たない人に撮っては非常に不便であると考えられる。また市内で渋滞が慢性的に起こっている現状も問題である。

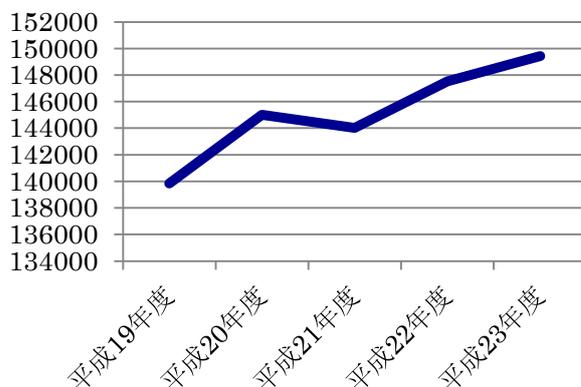


図6.キララちゃんバス乗客数

【3-6.観光】

江戸時代より水戸街道と水運の拠点のある城下町・宿場町として栄えた土浦市街は土浦城址やまちなか蔵周辺の歴史的町並みや小野小町伝説などの歴史資源、霞ヶ浦や筑波山南麓などの自然資源、工場見学など産業資源が存在する。また、秋田・新潟と並び全国屈指の花火競技大会が開催され毎年70万人もの来訪者があるのを始め、流鏝馬まつり、からかさ万灯など歴史ある祭事が開催されるほか、カレーフェスティバルや雛まつりも新たな行事として注目されつつある。このように土浦市はイベント観光が盛んな都市であるため、図7に示す通り、観光客数の現状は4月の桜まつり、8月のキララまつり、10月の花火競技大会開催時の入り込み数は大きいもののそれ以外では3万人前後で推移している、またそのほとんどが日帰りである(H17年度で7.3%、約10万人)。

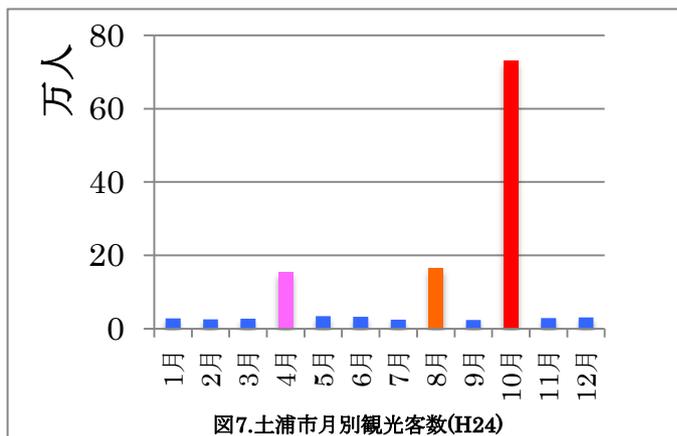


図7.土浦市月別観光客数(H24)

【3-7.医療・福祉】

一般診療所を含めた病院は市全域にあり、人口の多いところに多く分布している傾向がある。老人ホーム等の福祉施設も市内各所に多く存在している。また保育所入所待機児童数は2010年調べで0人となっている。

現在、中心市街地の真鍋地区にある土浦協同病院が施設の老朽化のためにおおつ野地区に移転することが決まっている。しかし移転後も現在地に診療機能を残し、外来や夜間救急医療を担うことになっているため、老朽化の問題は依然として残る。また病院移転によって中心市街地での駐車場不足の問題は緩和されることが予測されるが、おおつ野地区は中心市街地から離れた場所にあるうえ、鉄道駅からも遠く、交通手段は限られている。病院の利用が多い高齢者でも容易にアクセスできるような交通計画を立てることが、今後の課題である。

4.課題

以上の事柄より、土浦市のもつ問題は以下に整理する通りである。またこれらを地区別にまとめたものが図8である。

農水産業：農家数・農家人口の減少

霞ヶ浦の水質汚染による漁業の衰退

工業：おおつ野ヒルズの企業誘致難航

商業：中心市街地の衰退

交通：自動車依存・渋滞

観光：イベント依存型・認知度の低さ

医療・福祉：病院移転の影響

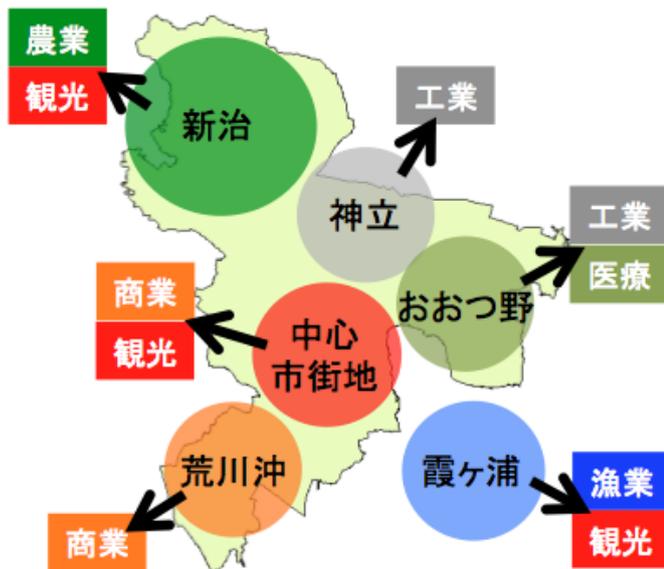


図8.地区別の特徴

5.提案内容

【5-1.地区別構想】

5-1-1.新治地区-「農業・観光」



図9.りりんロードの風景

新治地区は土浦市の中でも農業の盛んな地区である。新治地区の特徴である自然の豊かさを活かし、農業を観光ビジネスとして成立させる事を目指す。農業体験をより充実させるために宿泊と一体型のプランや小町の里を活用した取り組みが考えられる。

また、図9に示すつくばりんりんロードから6キロあまりという立地を活かし、「ポタリング」すなわち自転車を用いたまちあるきを推進することで自然と歴史豊かな新治の魅力向上とアピールに努めることとする。

5-1-2.神立地区-「工業」

神立地区は神立工業団地を抱え、市の工業の拠点となっている。また、神立駅西口では土地区画整理事業を実施中であり、この事業に併せて駅舎の橋上化が行われる。そこで「工業のまち」としての魅力向上を為しにリニューアルする駅舎周辺に工業関連の情報発信拠点を設置する。

また図10に示す通り地域の小学生等を対象とした工場見学を行うなど教育への取り組みも図り、これらを通して神立という地域ぐるみでの一体感の形成と、工業と街との融和を目指す。また工業の硬派なイメージを和らげ別の表情をもたせる取り組みとして駅舎周辺や住宅での「一家に一輪プロジェクト」を実施し花のあふれる新しい工業のまちとしての魅力向上を目指す。



図10.日立建機での工場公開

5-1-3.おおつ野地区-「医療」

前述のとおり当地区へ平成27年に土浦協同病院の移転が完了する予定である。そのため医療産業の集積を行い医療の拠点「医療のまち」として地域再構築と存在感アップを目指す。同時に鉄道駅からも元の中心市街地からも遠い場所に位置するにも関わらず、現在土浦駅からおおつ野へのバスは一日6本しか走っていない。病院の移転に際し、土浦駅からのアクセスの向上が求められる。これとともに神立駅からの路線バスも検討する。

5-1-4.中心市街地-「商業・観光」

イトーヨーカドーの撤退による商業の空洞化への対処としてモール505を再び活発な商業の拠点として整備する。閑散としたモール505へと駅周辺の人を誘導するため、現在土浦駅北地区で行われている再開発事業によって整備される新図書館とペDESTリアンデッキを延長しモール505の3階部分へと接続させる。このペDESTリアンデッキを示したのが図11である。またモール505のそもそもの魅力向上策としてB級グルメショップの集積など特色のある店構えに努め市民および観光客に対しての興味と関心を集めることとする。

土浦市への観光客は日帰りする人が多い。一方で霞ヶ浦周辺ではマリンスポーツや釣り客などの入れ込みが多く見られる。そこで霞ヶ浦への観光客を市街地の亀城公園等歴史文化地区やモール505等の商業地区に誘導し土浦での滞在時間をのばす事で魅力の発信と市街地の活性化にもつなげる。



図 11.モール 505 と土浦駅北地区再開発事業の接続

【5-2.発信】

土浦の魅力アピールには積極的な発信が不可欠である。現在市が毎月発行している広報つちうらについて、図 12 に示す通り、市の満足度調査によると特に若年者層において読んでいる率の低さが際立って目立つ。これからのまちを担ってゆく世代へのアピール方法は検討課題である。また SNS など情報通信技術の発達した現代ならではの PR 方法を模索し市内外へと継続的かつ精力的に発信してゆくことも必要である。魅力発信における可能性は大きい。

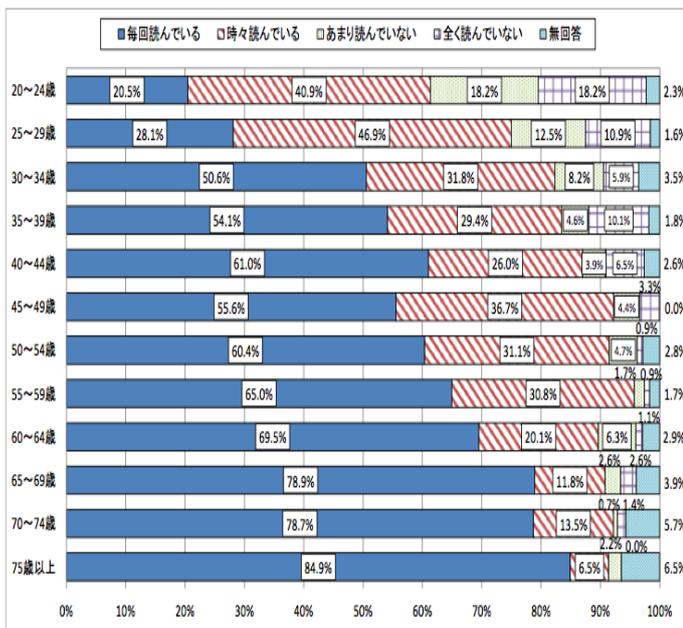


図 12.広報つちうらを程度読んでいるか (年代別) H23

【5-3.まとめ】

以上の提案により新治、神立といった各地域において魅力向上をはかることによりファン、すなわちファボ(Fav; お気に入り)の増加を狙う。これは最終的に各地域へのファボから土浦市へのファボとなることを期待できる。

またこうしたファンが新たな発信者としてリツイート(RT; 魅力拡散)を行うことによって土浦市の魅力をより向上させ、周知できるものとなることが考えられる。

以上より、土浦における「フォロー、ツイート、ファボ、リツイート」により土浦の問題解決と魅力増進を行うことを狙いとしてこのマスタープランを策定する。

6.今後の予定

- ・新治地区
りんりんロードから新しく提案するポタリングコースへの誘導方法の検討。(現地調査)
- ・神立地区
工場側の提案内容への協力のインセンティブ獲得の検討。(定量的分析)
- ・おおつ野地区
医療産業の集積にともなう周辺環境整備の方向性。
- ・中心市街地
提案内容の実現可能性。
モール 505 のコンセプトの検討。
- ・荒川沖地区
調査および提案。

これらの課題を含めた提案それぞれについて効果測定や事業費捻出方法の検討を行う。また、イベントへの参加やヒアリングを行いさらなる現地調査に取り組み、提案内容の充実を図っていく。

7.参考資料・文献

- [1]茨城県観光物産課. “平成 23 年度観光動態調査”
<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/syoukou/kanbutsu/dotai/dotai23.pdf>
- [2]土浦市. “観光基本計画”
http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1244176149_doc_26.pdf
- [3]e-Stat 政府統計の総合窓口
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001039517>
- [4]土浦総合案内
http://www3.ocn.ne.jp/~j-takei/About_Tsuchiura.htm
- [5]東日本旅客鉄道株式会社
<http://www.jreast.co.jp/passenger/>
- [6]土浦市公式ホームページ
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/index.php>
- [7]JA 土浦農産物直売所
<http://sunfure.com/niihari/>
- [8](一財)土浦市農業公社
<http://tsuchiura-n.or.jp/2856.html>
- [9]茨城県ホームページ
<http://www.pref.ibaraki.jp/>
- [10]統計つちうら
- [11]茨城県信用保証協会
- [12]日本コカ・コーラホームページ
<http://j.cocacola.co.jp/factory/index.html>
- [13]土浦協同病院ホームページ
<http://www.tkgh.jp/website/introduction/04sinbyouin/01.html>
- [14]土浦駅前北地区第一種市街地再開発事業基本設計概要
http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1219363509_doc_37.pdf
- [15]いばらき圏央道沿線ナビ
http://www.ken-o-do-ibaraki.com/php_industry/index.php?Detail=true&no=35
- [16]いばらきの工業団地
<http://www.indus.pref.ibaraki.jp/php/index.php?Detail=true&no=26>
- [17]日立建機
<http://www.hitachi-kenki.co.jp/>
- [18]農林水産省. “農林センサス”
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/>

(2013/10/24 最終閲覧)